

5 宗貞茂書下 (寺山家文書)

応永13年(1406)10月2日 三み御房 あて

佐護観音堂(上県町佐護)住持家の文書。宗貞茂以降、佐護観音堂は関連する神社とともに歴代島主の崇敬を受け、土地の寄進や諸税の免除を受けた。

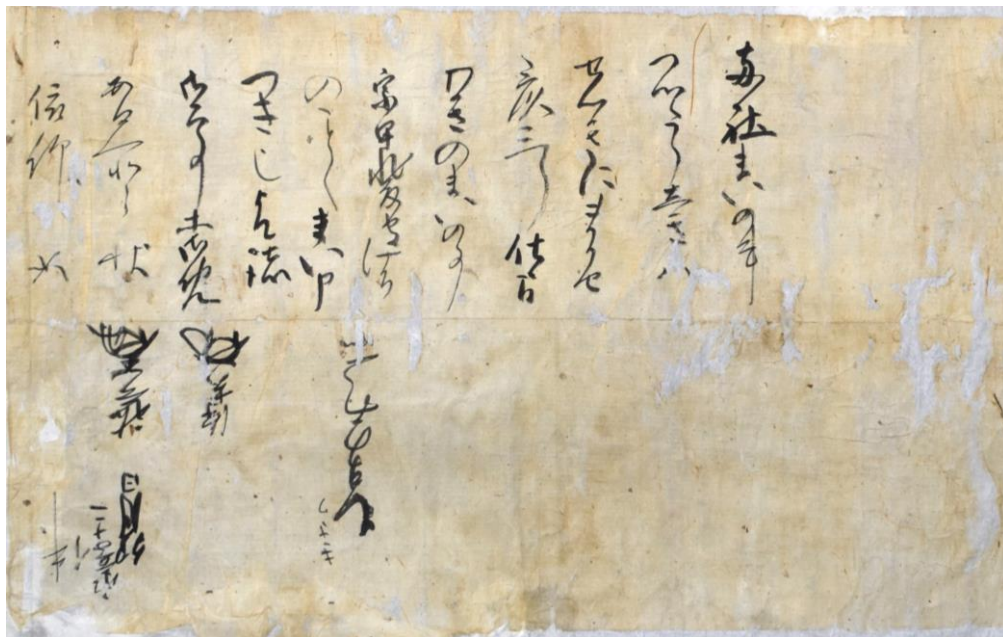
本文書は、宗貞茂が、佐護天道宮の造営・修理の勧進のために、朝鮮に渡る商人にも例外なく木綿半端ずつを求めることを認めた文書である。

対馬(佐護)さこ天たう
みやくわんしんの
こと、かうらいに
御わたり候する
あき人衆にも、
そのちさいおうせ
つけ候、かつて

いふねまでも
めんはんたんつ
おうせかけ候
状如件、

応永十三年
十月二日 貞茂(花押)

「宮司所
近江御房」三み御房
所



6 祐覚・浄秀連署奉書 (永留家文書)

永享12年(1440)卯月日 むまの五郎 あて

島主宗貞盛が、上津・下津両八幡宮の舞の別当職は彦三郎が務めるので、脇舞については、宗甲斐守の指示のように木坂の右馬五郎が務めるように認めた文書。

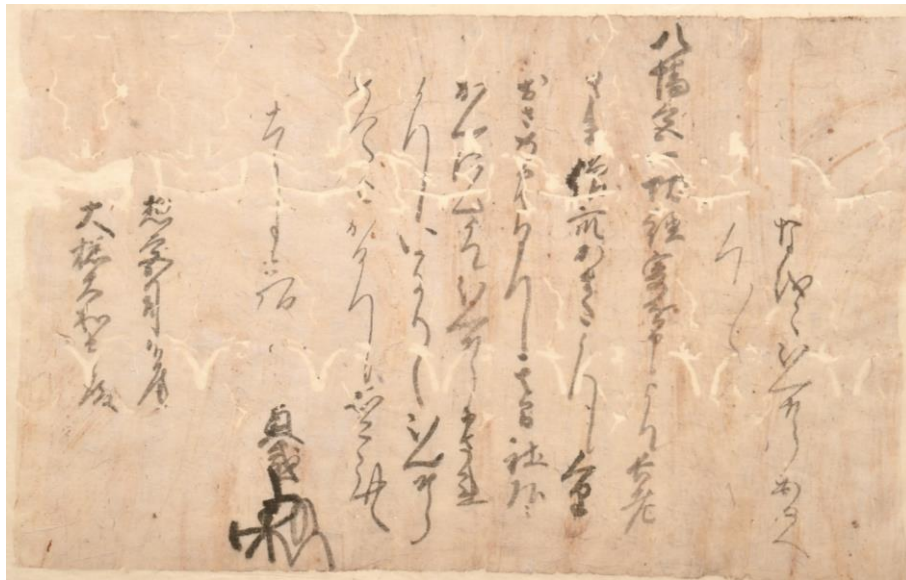
同じころ、右馬五郎は、両八幡宮の「舞役」に任じられている。祐覚と浄秀は宗貞盛の奉行人。

両社(別当職)まいの事、
へつたうしきは、
せんぎにまかせ、
彦三郎仕候間、
わきのまいの事、
宗甲斐守(下町)けち
のことくまい申
へき也、よて諸
公事等御免
ある所之状、
依仰□如

件、

永享十二
卯月日 祐覚(花押)
浄秀(花押)

きさか
むまの五郎所



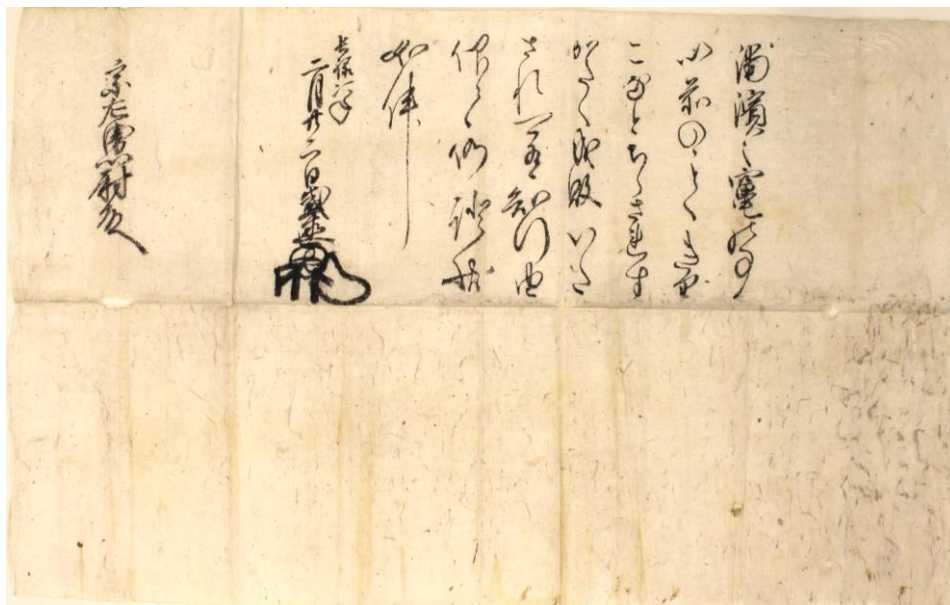
7 宗貞盛書状 (藤家文書)

(宝徳元年・1449)11月3日 惣宮司・大掾大和守 あて

宗貞盛が下津八幡宮(厳原の八幡宮神社)に、一切経(全ての仏教経典)を寄進したので、長老・僧衆が尽力して神社に納入するように指示した文書。

「御判物写」に府内藤勘之允所持とある。金剛峯寺(和歌山県)所蔵の本経典の奥書から、宝徳元年(1449)に比定されている。

なをく(奔走)ほんそうあるへ
く候、く
八幡宮一切経寄進申候、よて長老
さま、僧衆あまた候へく候、くり
おさめ申さるへく候、其間、社頭に
かん(堪忍)ん候て、ほんそう(奔走)申され
候へく候、いかにもく(奔走)ほんそう
めてたかるへく候、恐々謹言、
(宝徳元年)
十一月三日 貞盛(花押)
惣宮司御房
大掾大和守殿

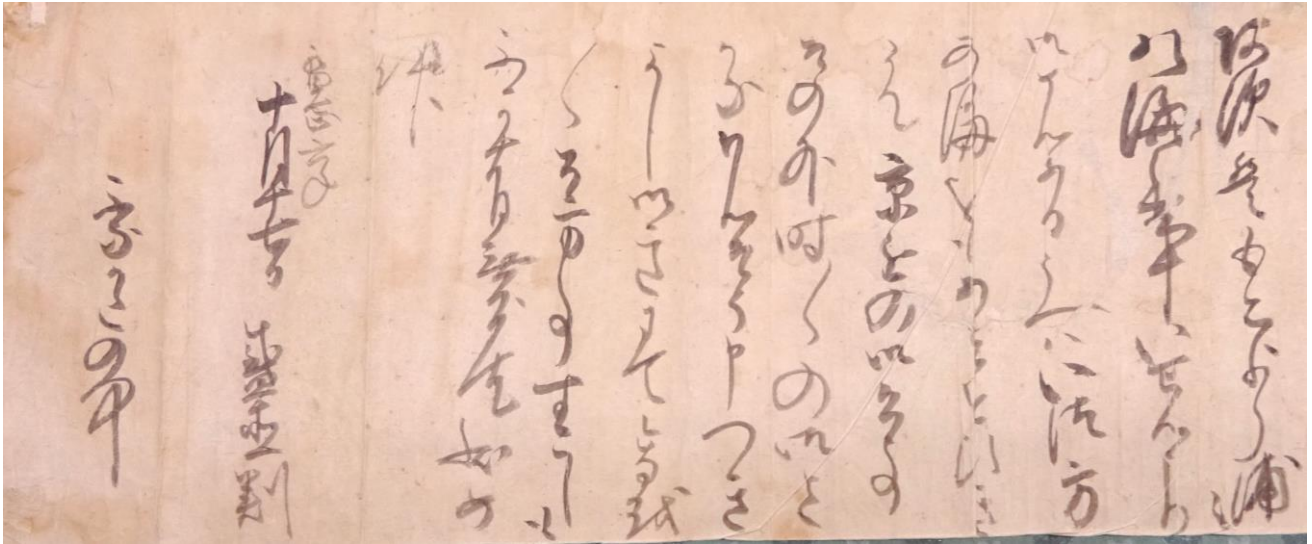


8 宗盛直書下 (久和家文書)

長祿4年(1460)2月22日 宗左衛門尉 あて

守護代宗盛直が宗左衛門尉に、浦浜(製塩施設)については伐子(木材を伐採する人)を嚴重に処置して知行するように守護宗成職の命を伝えた。久和(厳原町)の宗氏(後に久和氏と改姓)は久和の浦浜に塩釜を所有しており、島主から諸税を免除されていた。

浦浜之竈の事、
以前のことく、きり
こなとちうされす、
かたく成敗いた
され、可有知行由
仰に候、仍証状
如件、
長祿四年
二月廿二日 盛直(花押)
宗左衛門尉殿

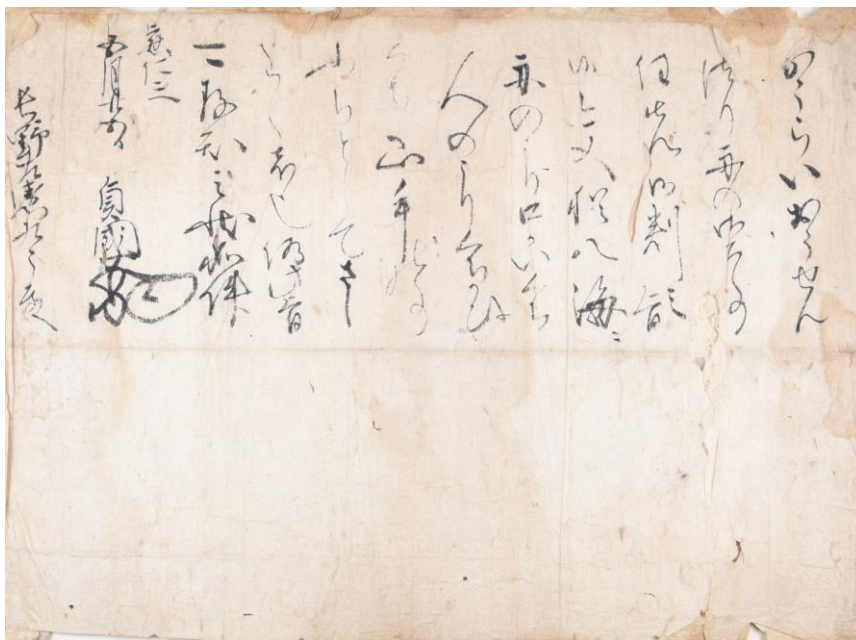


9 宗盛直書下案 (曲海士文書)
寛正6年 (1465) 10月17日 ふなかたの中 あて

守護代宗盛直が曲(厳原町)の船方に対して、阿須(厳原町)はもちろんのこと、「八海」(対馬全島の海域)で網を引き、「京進の御公事」(京に進上する税)や時々の魚を上納するように伝えている。

曲の海民はこれ以前からこうした漁業の特権が認められていた。

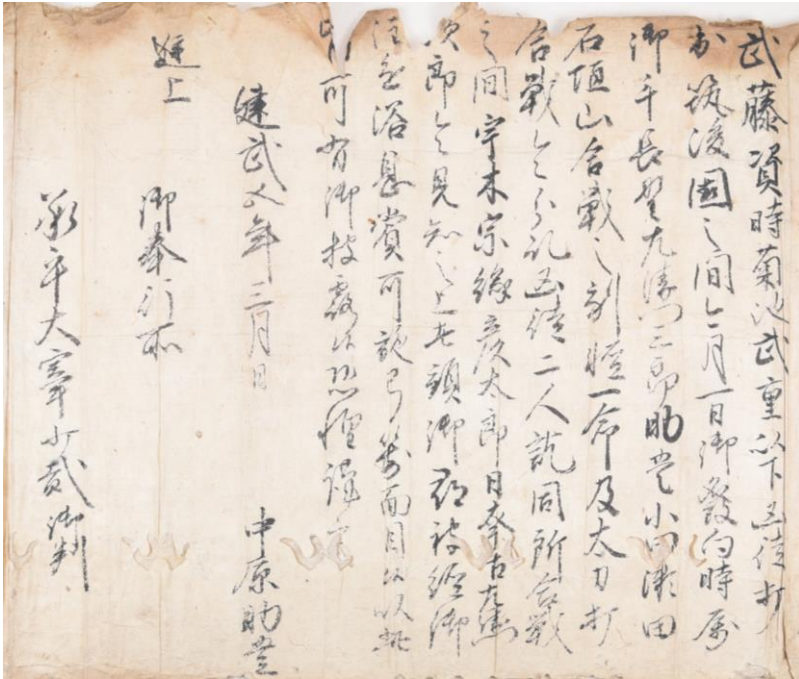
阿須はもとより浦々
八海之事、いせんより
御めんあるうへは、いつ方
の海をもあみをひき
候て、京進の御公事、
その外時々の御さ
かなほんそう申へき
よし御意にて候、なを
く公方事、すこしも
不可有無沙汰状如
件、
寛正六年
十月十七日 盛直判
ふなかたの中



10 宗貞国書下 (長野家文書)
応仁3年(1469)5月25日 長野左衛門九郎 あて

豊前国人の長野氏は宗氏の家臣となり、対馬に来島して、宗貞盛から志多賀(峰町)に居屋敷を与えられた。本文書は、対馬に定着した長野氏が朝鮮海域での漁業権を獲得し、「舟の売口買口」、「人の売口買口」、「山手」などの諸税を免除されたことを示している。

かうらいおうせん
つり舟の御公事、
任先御判之旨
候、今又猶八海に
舟のうり口かいくち
人のうりくちかひ
くち・山手の事、
ふちとしてさし
をく者也、仍此旨
可存知之状如件、
応仁三
五月廿五日 貞国(花押)
長野左衛門九郎殿



武藤資時・菊池武重以下凶徒、打出筑後国之間、今月一日御発向時、属御手、長野左衛門三郎助豊、小田・瀬田(筑後国野野)・石垣山合戦之刻、軽一命及太刀打合戦、令分取凶徒二人訖、同所合戦之間、宇木宗縁彦太郎・日奈古左衛門次郎令見知之上者、預御尋、被経御注進、浴恩賞、可施弓箭面目候、以此旨可有御披露候、恐惶謹言、

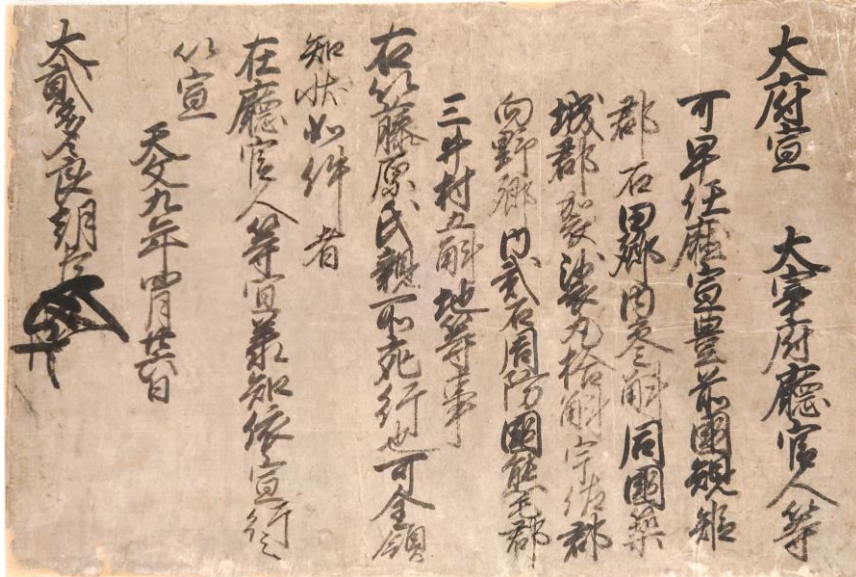
建武五年三月日 中原助豊

進上 御奉行所
承畢、大宰少式御判(頼尚)

11 ながのすけとよぐんちゆうじょううつし 長野助豊軍忠状写 (長野家文書)
建武5年(1338)3月日 御奉行所 みて

南朝方の武藤資時・菊池武重らが筑後国に進軍した時、豊前国人の長野助豊は少式頼尚に属して筑後の石垣山(久留米市)等で合戦し、2人を討ち取った。

証人に実否を尋ね、恩賞を下すように求めている。最後の1行は少式頼尚が書いた証判である。



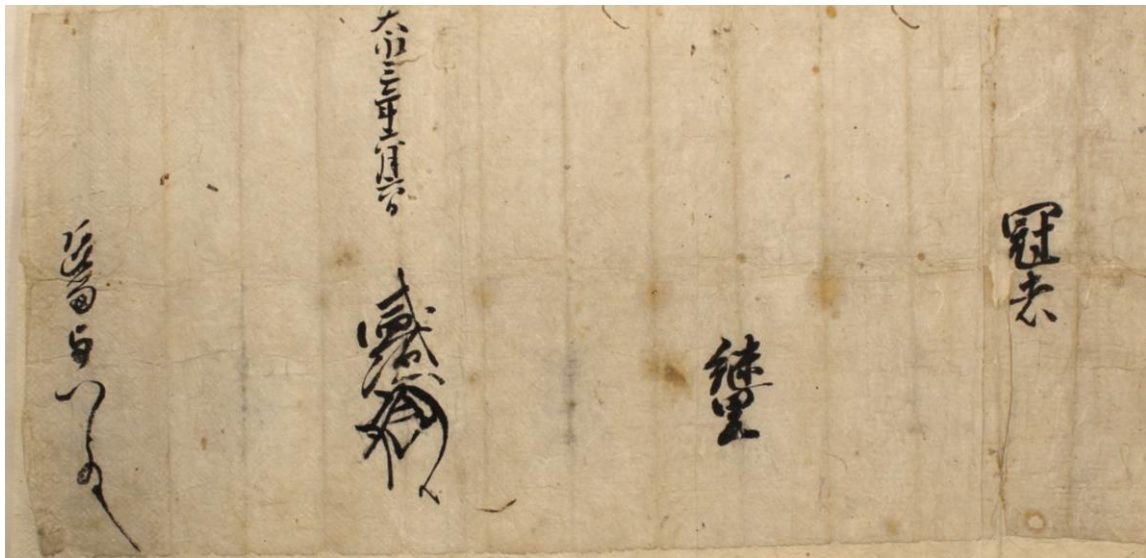
12 おおうちよしたかだいふせん 大内義隆大府宣 (築城家文書)
天文9年(1540)4月26日 藤原氏親 みて

築城家文書には、戦国時代の豊前国人門司氏の家文書3通がある。本文書は、大内義隆が大宰大式に任命された後に出した大府宣という形式の文書である。義隆が門司氏親に豊前国規矩郡石田郷(北九州市)等の知行を与えたもの。九州でも珍しい文書である。

大府宣 大宰府庁官人等
可早任庁宣、豊前国規矩郡石田郷内参斛・同国築城郡袈裟丸拾斛・宇佐郡向野郷内式石・周防国熊毛郡三井村五斛地等事、

右、以藤原氏親所宛行也、可全領知状如件、者
在庁官人等宜承知、依宣行之、以宣、

天文九年四月廿六日
大式多々良朝(天保朝)(花押)

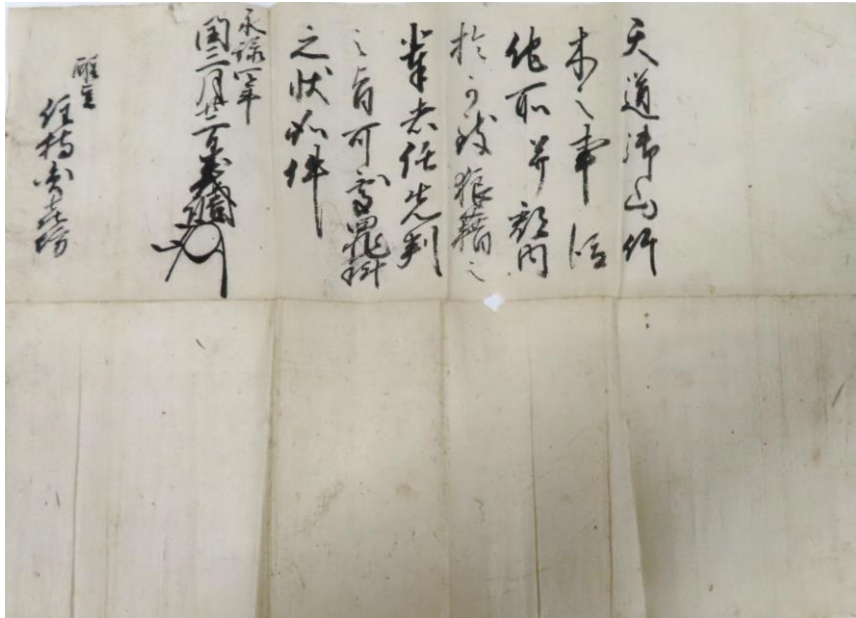


13 宗盛次加冠状 (阿部家文書)
大永3年(1523)6月6日 阿比留与八郎 あて

伊奈郡主宗盛次が、志多留(上臈町)の阿比留与八郎の元服に際して、その烏帽子親となり、「繼里」という名前を与えた。

島主や郡主が一字を与える文書は対馬に多く残る。宗盛次は16世紀前半の伊奈郡主で、残存する約100通の文書のうち半数は加冠状である。

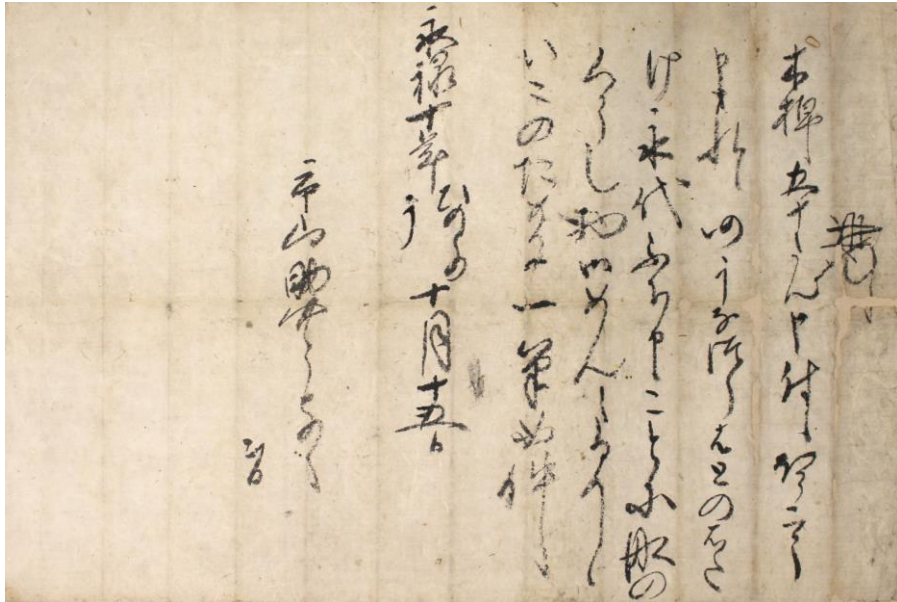
大永三年六月六日	冠者
阿比留与八郎殿	繼里
盛次(花押)	



14 宗義調書下 (主藤寿家文書)
永祿4年(1561)閏3月22日 酸豆住持円喜坊 あて

島主宗義調が、豆酸(厳原町)の天道山の竹木に関して、他所や郡内から狼藉を働く輩は、以前の文書にまかせて罪科に処すべきことを命じた文書。対馬特有の信仰である天道は島主・郡主・住民等の崇敬を受け、天道山の竹木保護の他、神領の寄進・課税免除・造営の援助等がなされた。

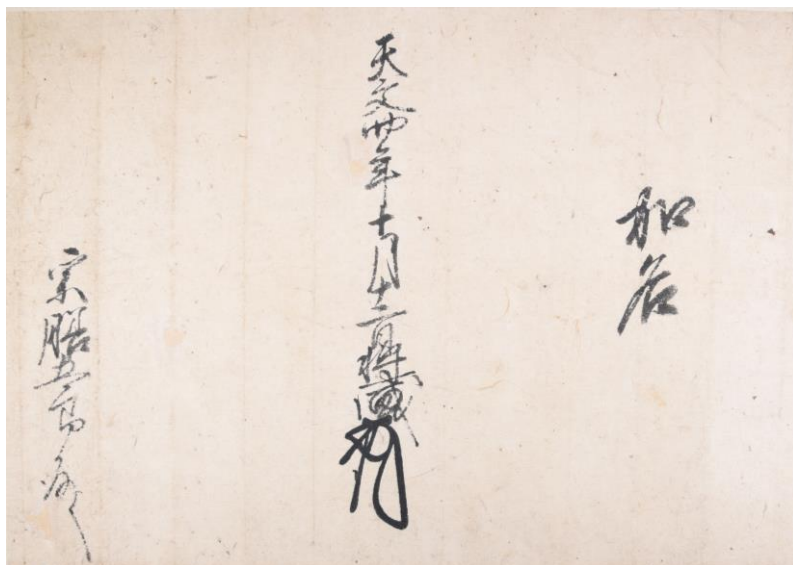
天道御山竹 木之事、從 他所并郡内、 於可致狼藉之 輩者、任先判 之旨、可処罪科 之状如件、	永祿四年 閏三月廿二日	義調(花押)
酸豆 (豆酸)	住持円喜坊	



15 宗調昌書下 (市山家文書)
永禄10年(1567)10月15日 市山助四郎 あて

永禄期後半の伊奈郡主宗調昌が、女連(上県町)の市山氏に対して木綿50端の賦課を行い、市山氏がこれを納めたので、女連の「はとの島」を与え、船に関する課役を免除した。木綿は朝鮮からの輸入品であるため、市山氏が交易に関与していた可能性がある。

(花押)
木綿五十たん申付候、(奉公) ほうこう
申され候、(女連) 仍うなつらはとのはた
け、(後持) 永代ふち申候、ことに船の
(公事) くうし物、御めんたるへく候、
(以後) いこのために一筆如件、
永禄十年(うひの) 十月十五日
市山助四郎とのへ
まいる

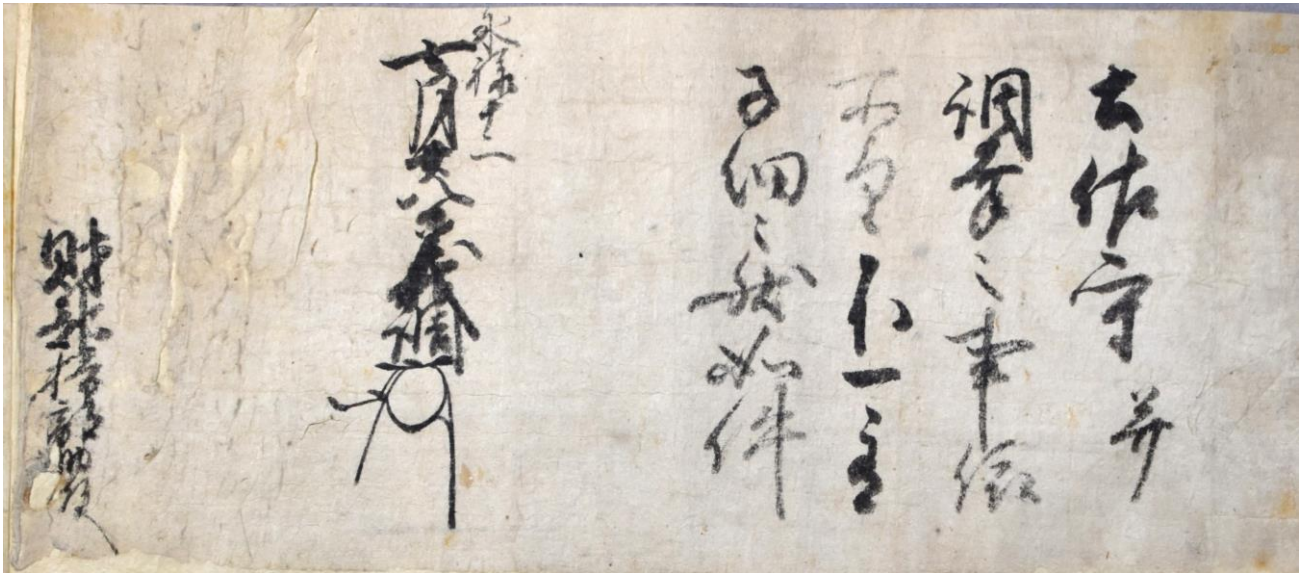


16 宗将盛加冠状 (中村家文書)
天文4年(1535)10月12日 宗膳五郎 あて

島主宗将盛が、峰郡朽木(現峰町吉田)の宗膳五郎に対して名前を与えた文書。元服等によるものと思われる。

将盛は初名盛賢。豊崎郡主宗盛弘の子で、大永6年(1526)、宗盛長の後の島主となる。天文8年(1539)に家臣たちに逐われ、豊(上対馬町)に隠棲した。

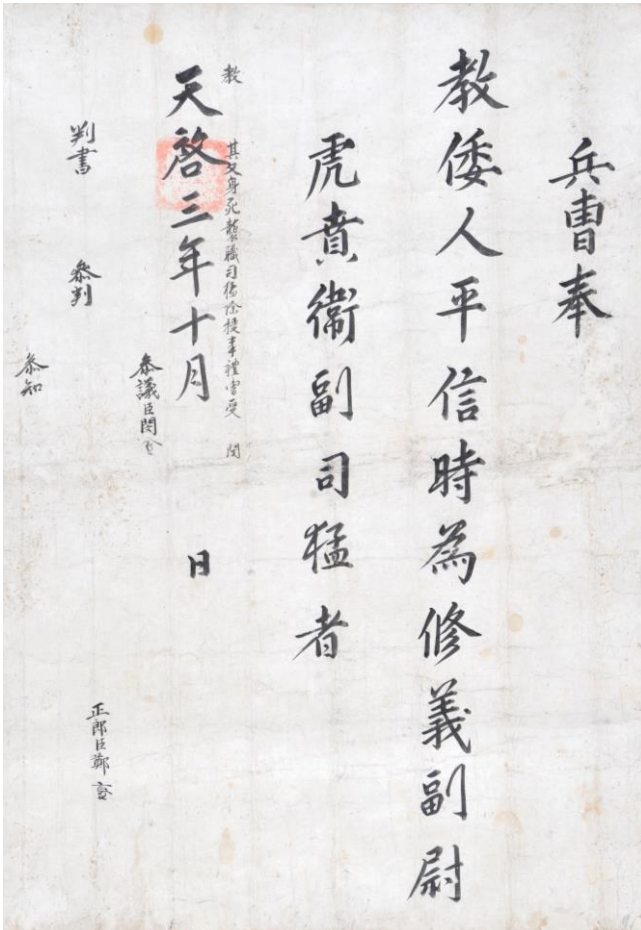
天文四年十月十二日
宗膳五郎殿
加名
将盛(花押)



17 宗義調官途・実名宛行状 (財部家文書)
そうよししげかんと・じつみょうあてがいじょう
 永禄12年(1569)7月28日 財部掃部助 あて

島主宗義調が伊奈郡琴(上対馬町)の財部掃部助に対して、土佐守と調幸という名前を与えた。永禄10年(1567)に伊奈郡主宗調昌が財部氏に加冠を行ったが、同12年(1569)には宗義調が、翌13年(1570)には伊奈郡主宗調国が行っており、郡主と島主の主導権争いがあった。

土佐守并
 調幸之事、依
 所望、不可有
 子細之状如件
 永禄十二
 七月廿八日
 義調(花押)
 財部掃部助殿

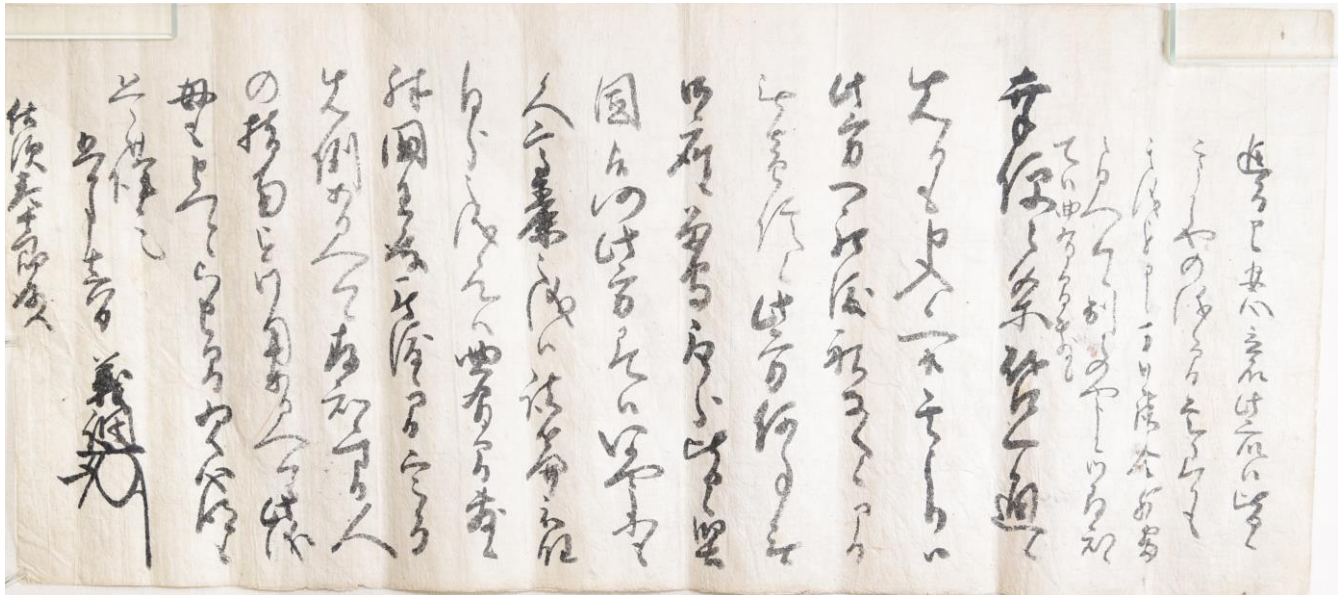


18 兵曹奉教告身 (小野家文書)
へいそうほうきょうこくしん
 天啓3年(1623)10月日 平信時 あて

朝鮮国王の命令(教)を奉じた兵曹(軍事を掌る中央官庁)が、倭人平信時に対して、副司猛の武官職を授けるとの旨を伝達したもの。

年号の右横には、亡父の跡を継がせ、司猛を授けるとの王命があったことを記す。文禄・慶長の役後に発給された、現存するなかで最も新しい告身である。

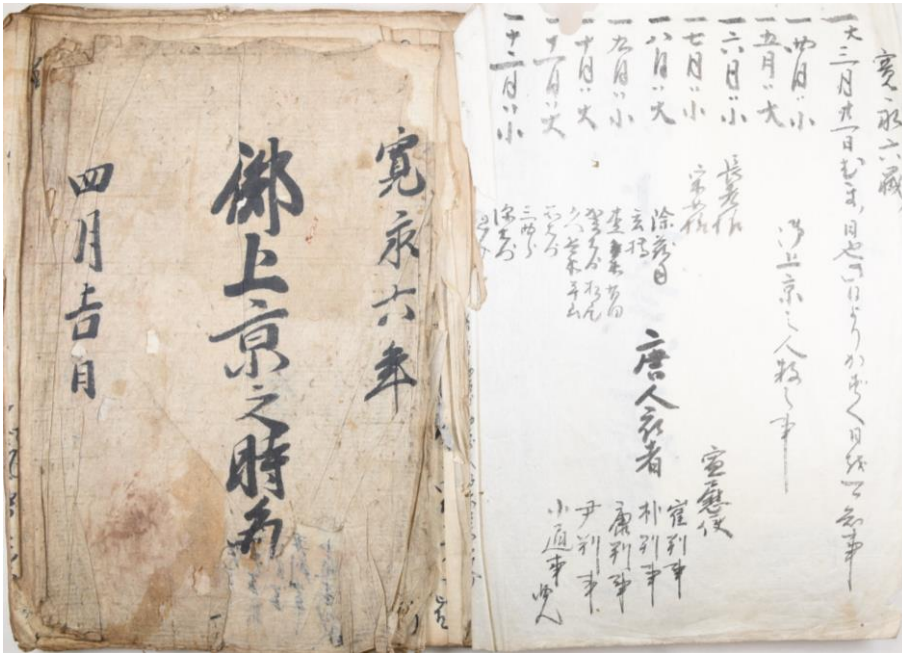
兵曹奉
 教、倭人平信時、為修義副尉
 虎賁衛副司猛者
 教 其父身死襲職、司猛除授事、礼曹受 関
 天啓三年十月 日
 判書 参判
 参知 参議臣関(花押)
 正郎臣鄭(花押)



19 宗義調書状 (杉村家文書)
 年不詳5月16日 佐須彦十郎 あて

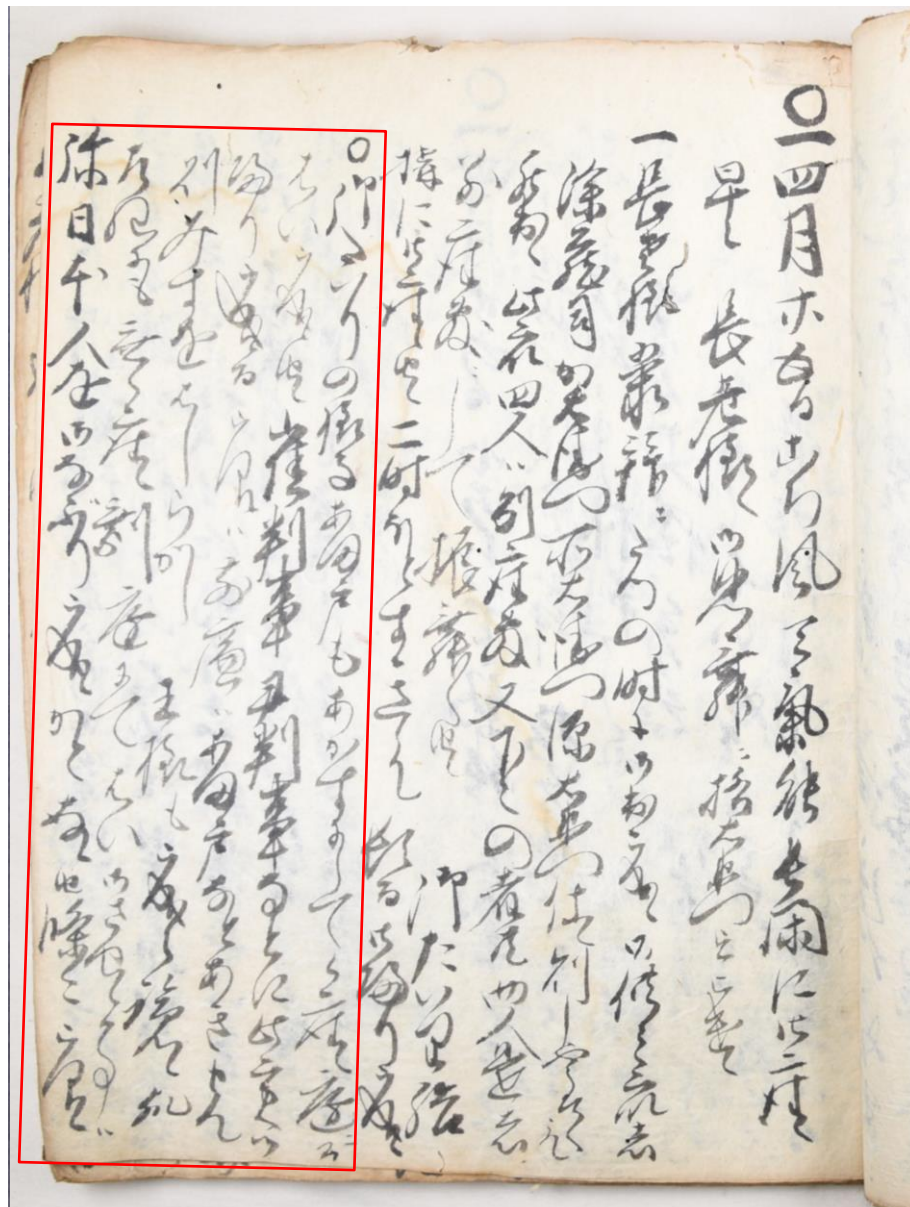
佐須氏は、戦国時代に守護代家となる佐須郡主佐須氏の一族で豆酩郡代。「高麗之儀」、「国王殿」という文言が注目される。「安心」は日本国王使として何度も朝鮮に渡った安心東堂、「立石」は宗氏家臣立石盛広。この書状は、天文21年(1552)か、その次の日本国王使派遣に関係する文書と推測される。

追而申候、安心・立石此衆は皆々
(巧者) ころしやの儀候間、是にても
 其儀を申候、万御談合肝要
 たるへく候、別々のやうに御存知候
 ては、曲有間敷候、
 幸便之条、啓一通候、
 先日も申入候へ共、其よりは
 此方へ罷渡船なく候間、
 無音信候、此方何事無
 御座候、留守取分皆々堅
 固候、仍此方にてはいかやうにも
 候へ、高麗之儀は諸篇被任
 自分之儀候ては曲有間敷候、
 殊国王殿罷渡候間、定而
 先例あるへく候、存知候する人
 の指南を御用あるへく候、此儀、
 母も申候へと被申候間、為御心得候、
 恐々謹言、
 五月十六日
 佐須彦十郎殿
 義調(花押)



寛永6年(1629)、日本国王使として対馬から朝鮮・漢城(現・ソウル)へ赴いた上京使節の往還記録。副使・杉村采女の家人によるものと考えられる。

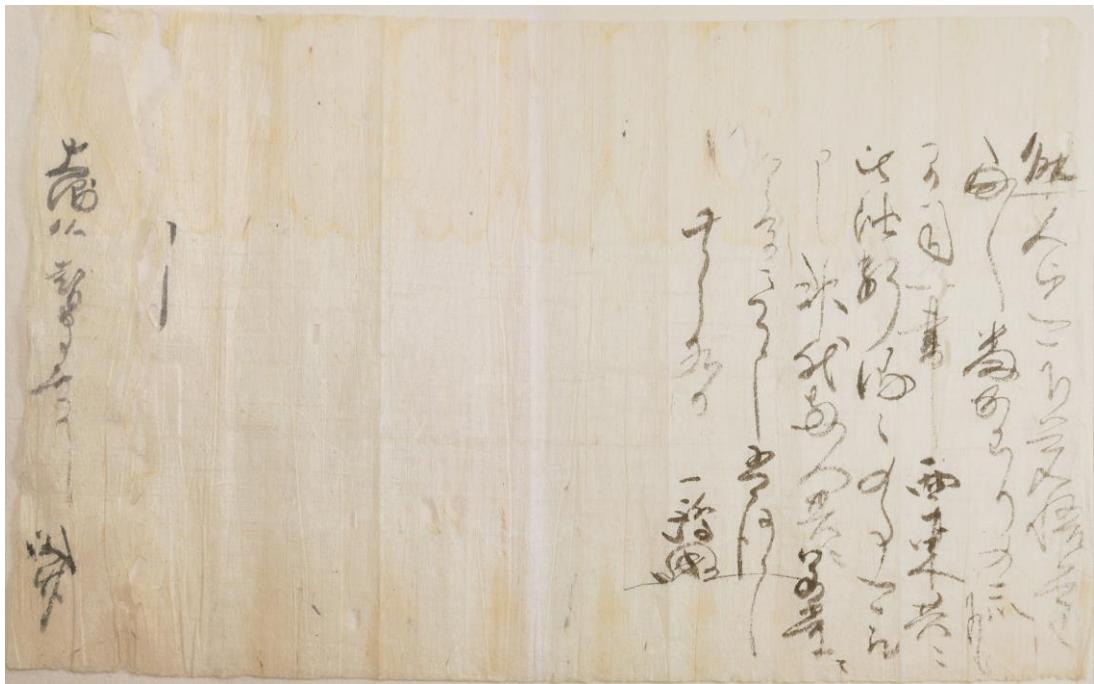
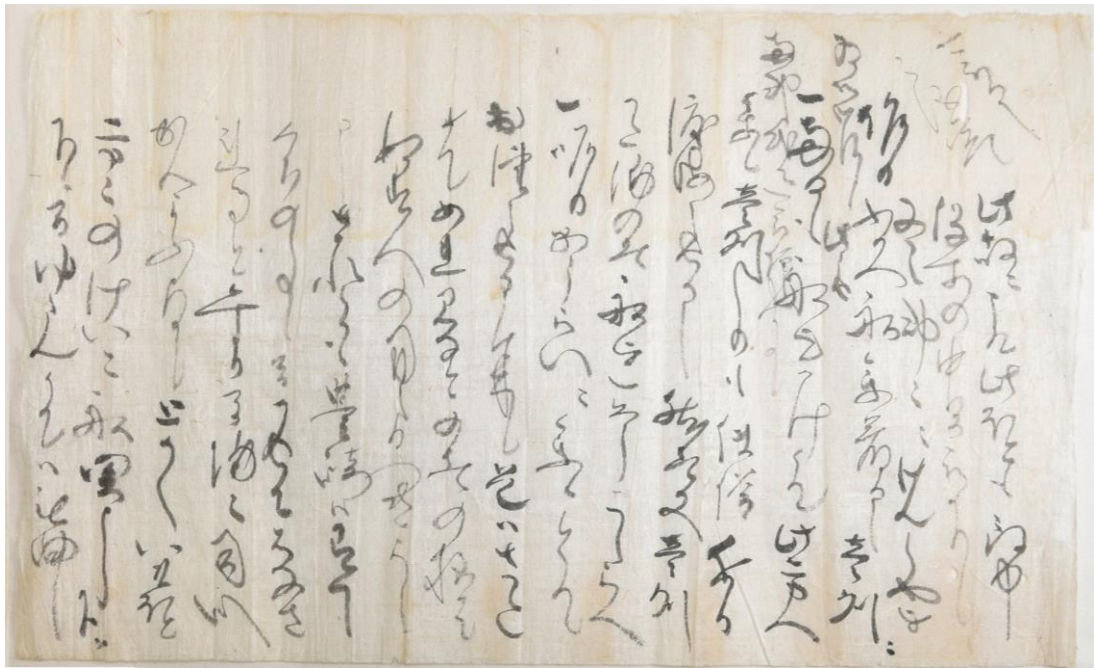
対馬藩主へ報告された正使・規伯玄方の記録『方長老上京日史』とは、記述内容に差異がある。



寛永6年4月25日、規伯玄方らは朝鮮王宮に参内し、国王への拝礼儀式・肅拝を行った。

玄方の『方長老上京日史』では国王臨席のもとでの肅拝であったとするが、本史料では、「(正殿の)あま戸もあかす」、国王不在であったと記す。日本国王使にふさわしい接遇であったとしたい玄方の脚色である可能性が高い。

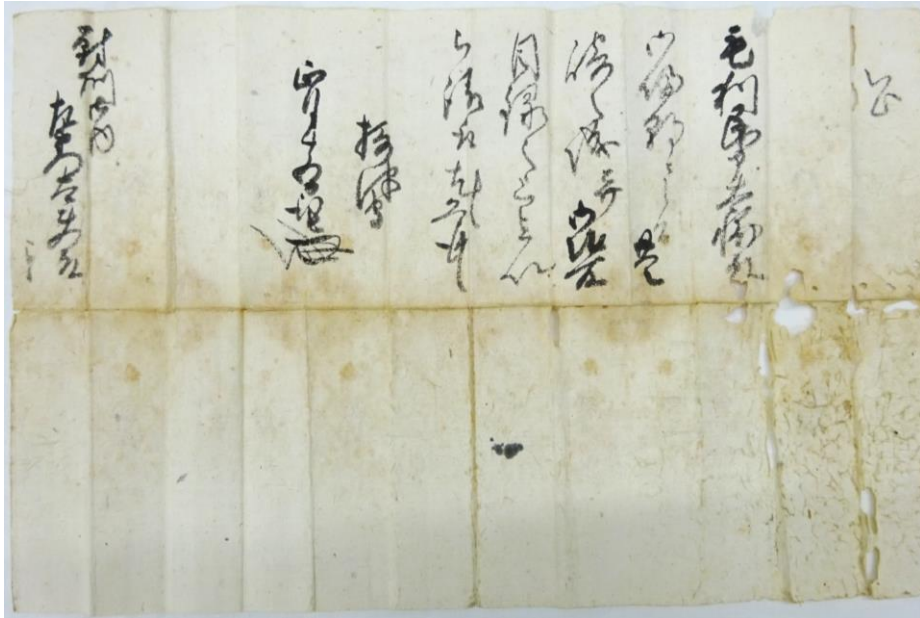
御たいりの様子、(内裏)あま戸もあかすにして御座候、庭にて(御)はい被成候由候、崔判事・尹判事などに、此方へ御歸り被成候てか被仰候は、前廉はあま戸などあき申し候て、(御座)則みすをはしらかし、王様も被成御覽候処、左様にも御座無く候、(御座)刺庭にてはい御させ候事は、(御座)弥日本人を御なぶり被成候かと存候由、條々被仰候、



21 宗一鷗(義調)書状 (大浦家文書)
 年不詳10月9日 大浦伯耆守 あて

宗義調は宗晴康の子で、晴康の後に島主となり、天正6年(1578)、一鷗と号した。
 本文書は、宗一鷗が豊崎郡大浦(上対馬町)の大浦伯耆守に出した自筆書状である。後期倭寇が出没する中、豊崎は朝鮮への「渡し口」であり、浦々の用心が肝要であると記す。

<p>此故によて、此ほとも殿中 役所の間被下候、 又々郡々にけんしやを 可被申之儀定候、 為御心得候、此之由、 両郡代に可被仰付事候、 昨日、ふかへ船参着申候、老州に 一両日も船をかけ候て此方へ 参候、老州よりも使僧近日 渡海之由申候、然は又老州 かた浦の者、船を一そうこしらへ、 一昨日、かうらいに参候とて、 出津之由申来候、是はさた めてあれみなとの者の様候て、 ぬす人の用たるへきよし 申候、されとも豊崎はわたし くちの事候間、返てはなさ れなと候する間、浦々用心 かんよふ存候、とかくいまほと 方々のけいこ船、関より下に 下候間、ゆたん候ては無曲候、 態人を可下覚悟候へとも、 たまく番かわりの衆下候 間、用一書候、西東共に 無油断、浦々の事、可被 申候、郡代両人共に若輩に 候之間にて申候、恐々謹言、 十月九日 一鷗(花押)</p>	<p>(墨引) 大浦伯耆守殿 閑齋</p>
--	----------------------------------



22 こにしゆきながしよじょう 小西行長書状 (大浦家文書)
 (文禄5年・1596)正月15日 対州御内左衛門大夫 あて

小西行長から宗氏家臣・大浦氏あて書状。豊崎で朝鮮・対馬間の船の差配をつとめた毛利友重の帰還にあたり、豊崎の城と土地を目録にした上で受取るよう伝える。文禄の役で明との講和交渉が進むと一部の兵を帰国させたが、その際に行長は在番体制の縮小・再編にあたった。本史料もその一つ。

以上、
 毛利民部(友重)太輔殿
 御帰朝二候間、豊崎之儀并御地所
 目録之上を以、
 被請取尤候、恐々謹言、
(小西) 撰津守
 正月十五日 行長(花押)
 対州御内
 左衛門大夫殿
 まいる



23 こうらいばんだいはんにやまじょう 高麗版大般若經 (長松寺)
 高麗時代(11世紀)

1011年、高麗王朝は国家事業として、大蔵經(一切經)を開板(新しく版木を彫ること)した。これを初雕版という。

長松寺の大般若經は599帖のうち586帖が初雕版であり、まとまった現存例として世界的にも珍しい。第600巻末(上の写真)の墨書には、「此經曾来自朝鮮国、其檀越乃普賢/堂性東居士 院主長左」とあることから、15世紀中頃に朝鮮から対馬へもたらされたと考えられている。



第1巻表紙



参考出品 ^{くにえず} 国絵図
江戸時代

対馬の国絵図である。

江戸時代、国絵図は幕府の命により慶長、正保、元禄、天保の4度にわたって作成されている。この国絵図には紀年銘はないものの、その絵図情報や墨書された村数などから元禄期に作成された国絵図に近似している。

法量は長崎県対馬歴史研究センターが所蔵する国許控の「元禄対馬国絵図」（対馬宗家関係資料）よりも縦で40cm、横で30cm余り小ぶりであるが、村名にふりがなが付されていたり、岬名などが記されていたりして、情報量が多く実用的である。

幕府に提出された清図もしくはその国許控ではなく、対馬藩の絵図方が画いた下絵、もしくは清図や国許控の写しと考えられる。

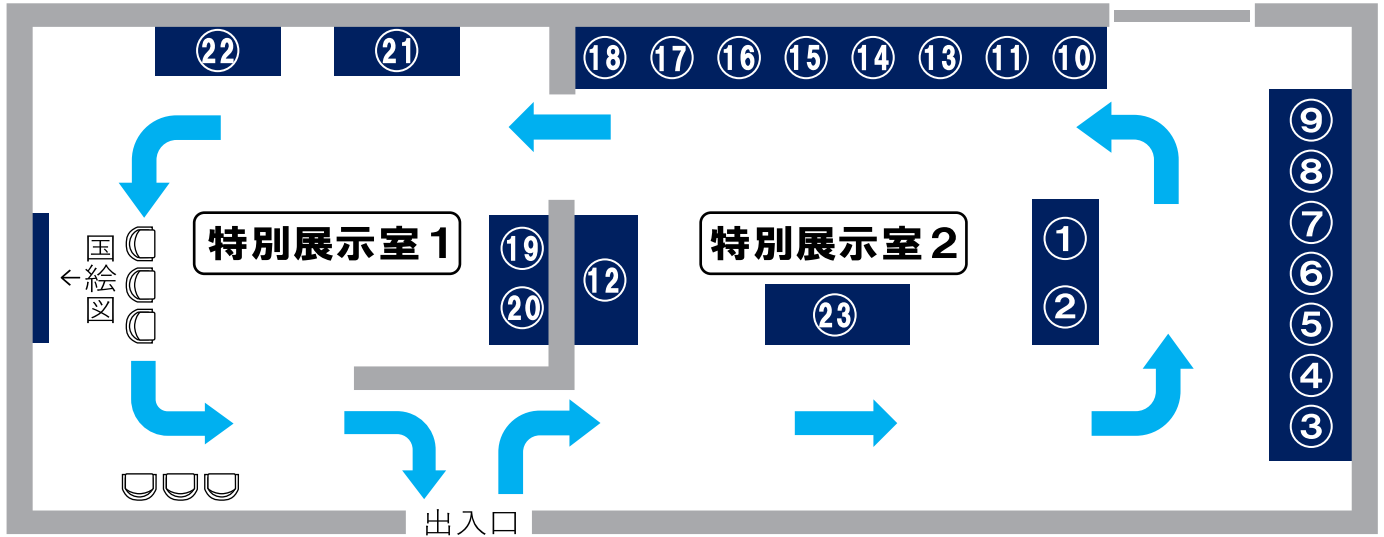
対馬に在住していた陶芸家の^{こぼやしとうご}小林東五氏が韓国で入手し、折畳装を額装仕立てにしたもので、同氏から開館前の対馬博物館に寄贈された。

国内から近現代に流出したものか、江戸時代に朝鮮通信使もしくは訳官使が対馬で内密に入手して持ち帰ったものか不詳。

凡例

- ・年代については、和暦（西暦）で表記した。なお、年代表記がないものは、史料内容から（ ）内に推定年代を表記した。
- ・原則として旧漢字・異体字は常用漢字に改め、便宜上、読点および中黒を補った。
- ・変体仮名は現行の平仮名によって表記した。
- ・端裏書や異筆の部分は「」を付して示した。
- ・改行は原本の通りとした。
- ・仮名書きや人物名については、理解を助けるために（ ）を併記して内容を補った。
- ・破損等による欠失は字数分を□で表記した。判読できない文字は■とした。
- ・折紙形式の古文書の積文については、上段・下段の境を-----で示した。
- ・解説および積文は、佐伯弘次・山口華代が作成した。
- ・解説・積文・出品目録・関連年表は、「対馬の古文書展」で掲示したものに加筆訂正を加えた。

「対馬の古文書展」レイアウト



出品目録

番号	資料名	員数	作成年	宛所	材質	形状	法量(cm)	文化財指定	所蔵	備考
1	少式妙恵(貞経)書下	1通	嘉暦2年(1327) 12月28日	宗馬弥次郎入道	紙本墨書	卷子装	縦16.5 横44.5	重要文化財	対馬歴史研究センター	大山小田家文書
2	輔恵・西郷顕景連署書下	1通	康永4年(1345) 2月1日	大山宮内允	紙本墨書		縦14.5 横39.0	重要文化財	対馬歴史研究センター	大山小田家文書
3	宗澄茂書状	1通	文中4年(1375) 12月28日	左衛門入道	紙本墨書		縦25.5 横35.0	個人/対馬歴史研究センター 寄託	対馬歴史研究センター	島居家 (木坂社家)文書
4	性融讓状	1通	応永9年(1402) 12月21日		紙本墨書	卷子装	縦26.5 横44.0		対馬歴史研究センター	豆殿内山家文書
5	宗貞茂書下	1通	応永13年(1406) 10月2日	三み御房	紙本墨書		縦25.1 横28.2	個人/対馬歴史研究センター 寄託	対馬歴史研究センター	寺山家文書
6	祐覚・浄秀連署奉書	1通	永享12年(1440) 卯月日	むまの五郎	紙本墨書		縦26.7 横42.5	個人/対馬歴史研究センター 寄託	対馬歴史研究センター	永留家文書
7	宗貞盛書状	1通	(宝徳元年・1449) 11月3日	惣宮司・大掾大和守	紙本墨書		縦27.5 横43.4		対馬博物館	藤家文書
8	宗盛直書下	1通	長祿4年(1460) 2月22日	宗左衛門尉	紙本墨書		縦28.4 横45.5		対馬歴史研究センター	久和家文書
9	宗盛直書下案	1通	寛正6年(1465) 10月17日	ふなかたの中	紙本墨書	卷子装	縦14.3 横40.0		曲地区/対馬歴史研究センター 寄託	曲海士文書
10	宗貞国書下	1通	応仁3年(1469) 5月25日	長野左衛門九郎	紙本墨書	卷子装	縦26.5 横36.5	個人/対馬歴史研究センター 寄託	対馬歴史研究センター	長野家文書
11	長野助豊軍忠状写	1通	建武5年(1338) 3月日	御奉行所	紙本墨書		縦28.5 横34.8	個人/対馬歴史研究センター 寄託	対馬歴史研究センター	長野家文書
12	大内義隆大府宣	1通	天文9年(1540) 4月26日	藤原氏親	紙本墨書		縦32.0 横47.5		個人	築城家文書
13	宗盛次加冠状	1通	大永3年(1523) 6月6日	阿比留与八郎	紙本墨書		縦19.3 横40.1	個人/対馬歴史研究センター 寄託	対馬歴史研究センター	阿部家文書
14	宗義調書下	1通	永祿4年(1561) 閏3月22日	酸豆住持円喜坊	紙本墨書		縦28.1 横41.4		対馬博物館	主藤寿家文書
15	宗調昌書下	1通	永祿10年(1567) 10月15日	市山助四郎	紙本墨書		縦27.6 横41.2	個人/対馬歴史研究センター 寄託	対馬歴史研究センター	市山家文書
16	宗将盛加冠状	1通	天文4年(1535) 10月12日	宗膳五郎	紙本墨書		縦27.2 横38.8		個人	中村家文書
17	宗義調官途・実名宛行状	1通	永祿12年(1569) 7月28日	財部掃部助	紙本墨書		縦16.2 横36.8	個人/対馬歴史研究センター 寄託	対馬歴史研究センター	財部家文書
18	兵曹奉教告身	1通	天啓3年(1623) 10月日	平信時	紙本墨書	掛幅装	縦103.1 横74.7	長崎県指定 有形文化財	対馬歴史研究センター	小野家文書
19	宗義調書状	1通	年不詳5月16日	佐須彦十郎	紙本墨書		縦18.0 横39.7		対馬歴史研究センター	杉村家文書
20	御上京之時毎日記	1冊	寛永6年(1629)4月		紙本墨書	冊子装	縦23.7 横23.0		対馬歴史研究センター	杉村家文書
21	宗一鷗(義調)書状	1通	年不詳10月9日	大浦伯耆守	紙本墨書		縦25.1 横76.5		対馬歴史研究センター	大浦家文書
22	小西行長書状	1通	(文祿5年・1596) 正月15日	対州御内左衛門太夫	紙本墨書		縦31.7 横49.2		対馬歴史研究センター	大浦家文書
23	高麗版大般若経	2帖	高麗時代(11世紀)		紙本木版 墨摺	折帖	縦26.5 横10.6	重要文化財	長松寺/対馬歴史研究センター 寄託	

参考出品

参考1: 国絵図	1面	江戸時代		紙本著色	額装	縦331.8 横142.3			対馬博物館	
----------	----	------	--	------	----	------------------	--	--	-------	--

展示中の様子



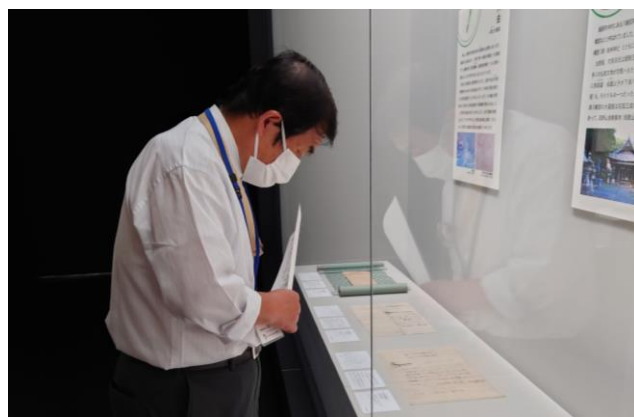
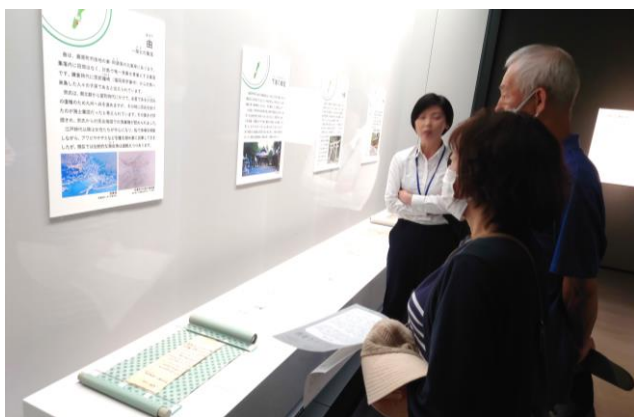
展示室の様子



日本古文書学会による資料見学会の様子

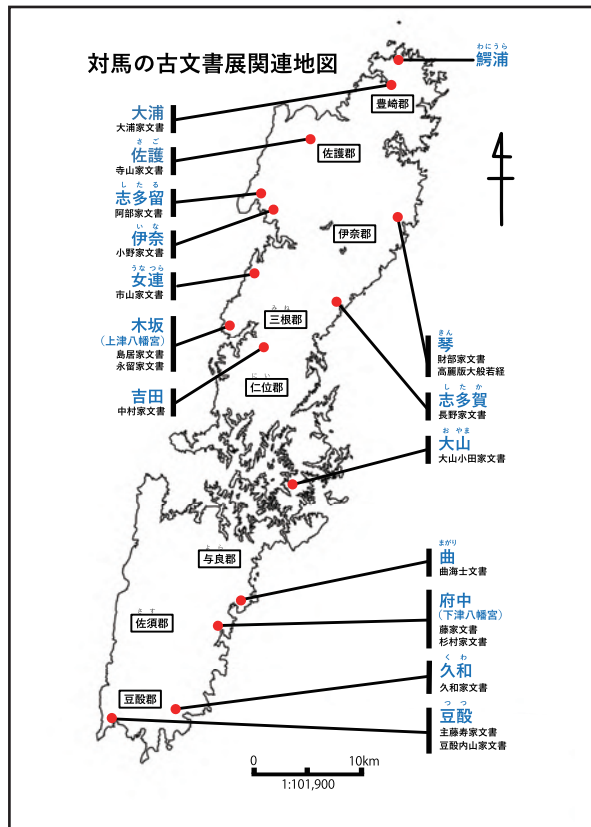
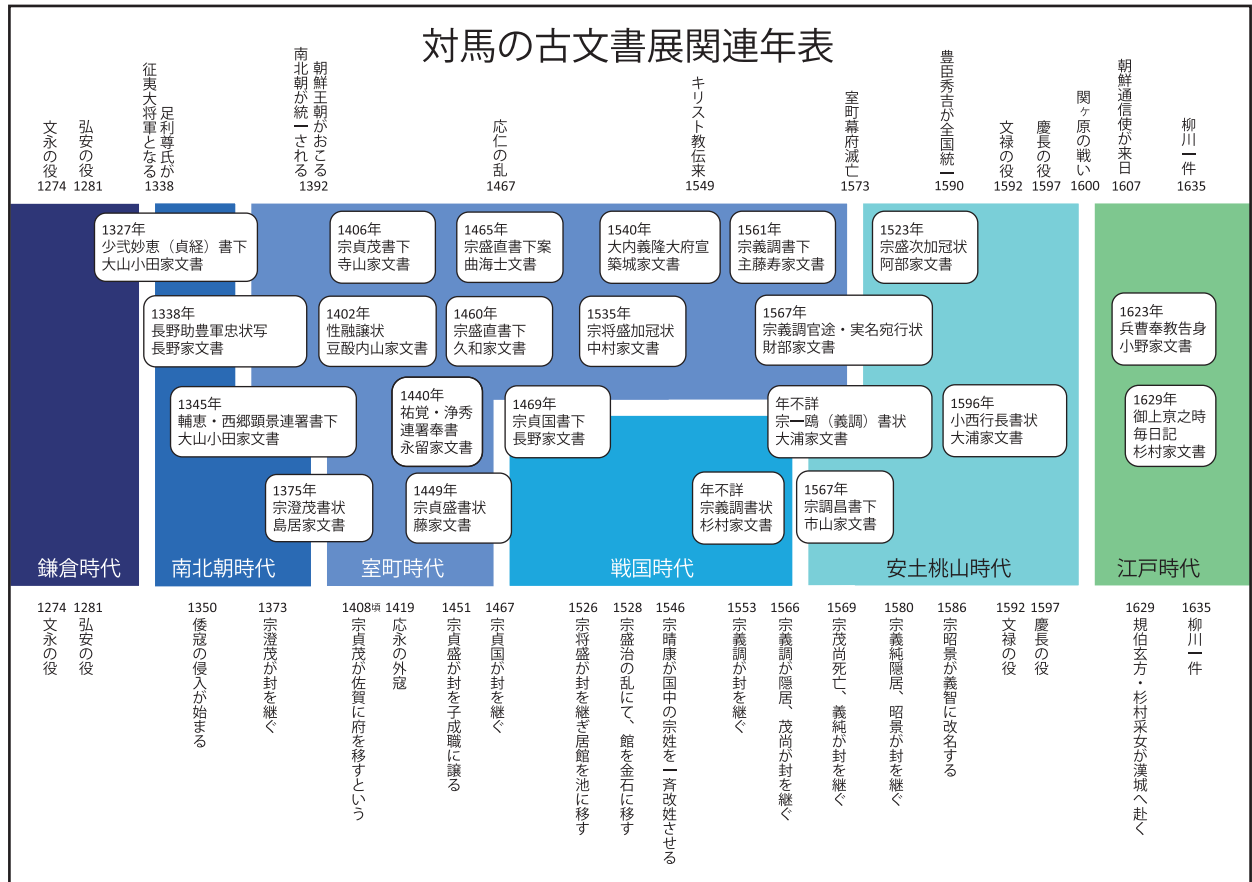


左から、町田一仁館長・佐伯弘次九州大学名誉教授・浦野所長



古文書所有者および関係者の来場

展示パネル一部紹介



朝鮮半島への出漁 — 孤草島釣魚禁約

対馬の中世文書に登場する「おふ（う）せん」という用語は、朝鮮語の「漁夫船（어부선）」に由来し、韓国全羅南道の南方にある孤草島（現・巨文島）での釣魚のことと考えられています。孤草島のある多島海地域は、水産資源の豊かな漁場でした。

1441年（世宗23・嘉吉元）に朝鮮王朝と対馬島主・宗貞盛とのあいだで孤草島釣魚禁約が結ばれます。これによって、対馬の漁民たちは、渡航証明書（文引）を発行する朝鮮王朝や対馬宗氏に対して、その漁獲物の一部を税として納めることとなりました。15～16世紀の対馬の漁民たちにとっては、約300km離れた異国の海域も活動範囲だったのです。

孤草島への出漁の流れ

対州馬展に協力しました

令和5年8月11日(金)～9月18日(月)、対馬博物館ギャラリーおよび講座室において、「対州馬展」(主催：上対馬振興部上県行政サービスセンター)が開催されました。対馬歴史研究センターからは、展示パネルへの所蔵資料写真の提供のほか、平常展での馬具などのコラボ展示にて協力しました。

期間中は多くの方にご来場いただき、センター所蔵の宗家関係資料につきましても、関心を寄せていただく機会となりました。



対州馬展チラシ



会場(講座室)のようす



島おこし協働隊・吉原知子氏による展示解説



展示パネル(一部)

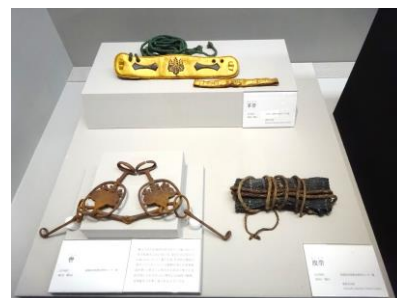
平常展でのコラボ展示



かいらぎうつしぞうげはりくら
梅花皮象牙張鞍
(個人蔵/長崎県対馬歴史研究センター寄託)



あおり・うまぐつ
泥障・馬杓
(長崎県対馬歴史研究センター蔵)



くつわ
革帯・轡・腹帯
(長崎県対馬歴史研究センター蔵)

夏休みワークショップ

くずし字キーホルダーをつくろう を開催しました

令和5年度対馬博物館の夏休み企画として、当センターではワークショップ「くずし字キーホルダーをつくろう」を開催しました。

参加者は、「くずし字とは?」「生活の中のくずし字」「読む方法」などについてスライドで学び、くずし字の見本や辞典を参考に、オリジナルのキーホルダーを作成しました。

たくさんの方にご参加いただき、普段意識することのない「くずし字」や古文書に親しんでいただく機会となりました。

開催日程 令和5年7月30日(日) ① 10:30~12:00 ② 13:30~15:00

対象 小学生・中学生(各回9名)

参加者数 31名(付添い含む)

イベントスケジュール

イベント	日時	対象	料金	申込
くずし字キーホルダーをつくろう	7月30日(日) 10:30~12:00 13:30~15:00	小学生・中学生	無料	7月25日
オリジナル編み物をつくろう	8月11日(金) 9:30~11:00 11:00~12:00 8月12日(土) 9:30~11:00	小学生・中学生	100円 200円	申込不要
海洋ごみマップサイタルキーホルダーをつくろう	8月19日(土) 13:30~15:00	小学生・中学生	100円 200円	7月25日
シルクスクリーンに挑戦! 夏のたけなわをつくろう	8月22日(水) 14:00~15:00	小学生	100円 150円	8月14日

対馬博物館 対馬歴史研究センター

展示解説会(対馬歴史)
8月11日(金) 9:30~11:00 小学生・中学生 無料 申込不要

展示解説会(平家景隆)
8月12日(土) 9:30~11:00 小学生・中学生 無料 申込不要

お盆限定! クイズラリー(平家景隆)
8月11~15日 観覧時間中 小学生・中学生 無料 申込不要

対馬歴史研究センター 対馬歴史研究センター 対馬歴史研究センター



Instagramはじめました

対馬歴史研究センター公式Instagramを開設しました。

展示やイベントのお知らせ、史料紹介などの情報を発信しています。

右のQRコードからアクセスできます。是非フォローをお願いします。



出前講座

令和 5 年 5 月 27 日(土) 対馬博物館 1 周年記念シンポジウム
令和 5 年 7 月 8 日(土) 第 6 回対州馬と対馬の歴史トークショー



対馬博物館 1 周年記念シンポジウム



第 6 回対州馬と対馬の歴史トークショー

研修・体験等受入

勉強会受入(毎月 1 回) 対馬古文書研究会
令和 6 年 2 月 13 日(火)~15 日(木) 社会体験研修 対馬高校 有田教諭



対馬古文書研究会

有田教諭 社会体験研修



糊炊き



クリーニング



法量計測

視察・施設見学・展示解説等

令和5年4月26日(水)	視察	長崎県教育次長・学芸文化課長
令和5年5月26日(金)	視察	長崎県移動教育委員会
令和5年9月12日(火)	施設見学	対馬高校国際文化交流科
令和5年9月25日(月)	展示解説	日本古文書学会
令和5年9月26日(火)	施設見学	長崎大学多文化社会学部木村ゼミ研修
令和5年9月27日(水)	視察	沖縄県博物館建設関係者
令和5年11月2日(木)	視察	長崎県浦副知事
令和5年11月10日(金)	施設見学	宗中正氏
令和6年3月18日(月)	視察	改革21県議会議員



長崎県教育次長・学芸文化課長視察



長崎県移動教育委員会視察



長崎大学多文化社会学部 木村ゼミ研修



沖縄県博物館建設関係者視察



長崎県 浦副知事





左から、大浦課長・二宮氏・宗中正氏・浦野所長・山口係長

取材協力・掲載分

当センターでは、各種メディアへの取材や監修、資料提供に協力しています。

申請者	資料名	番組名・書籍名・展示名など
大阪府在日外国人研究協議会	「朝鮮国信使絵巻(文化度の一部)」(宗家文庫史料・絵巻類3)	『ちがいでキドキ多文化共生ナビ ～在日外国人教育実践プラン集～』第2巻
株式会社ゆまに書房	「御上京之時毎日記」「杉村采女智廣画像」(杉村家文書)	『近世日朝交流史料叢書Ⅲ 御上京之時毎日記』
株式会社旺文社	「朝鮮国信使絵巻(文化度の一部)」(宗家文庫史料・絵巻類3)	『2024年受験用全国高校入試問題正解社会』
対州馬保存会	「御牧馬并ニ御預ケ馬帳」(宗家文庫史料・記録類I-2-O-2) 「濃部御牧之絵図」(宗家文庫史料・絵図類Ah-19) 「朝鮮国信使絵巻(文化度の一部)」(宗家文庫史料・絵巻類3) 「梅花皮写象牙張鞍」(個人蔵(寄託))	企画展示「対州馬展」
株式会社ベネッセ コーポレーション	「朝鮮国信使絵巻(文化度の一部)」(宗家文庫史料・絵巻類3)	『2023年度 最新入試過去問徹底解説 下巻/10月号/高知』 『2024年度 入試過去問徹底解説 上巻/8月号/高知』 『2025年度 入試過去問徹底解説 上巻/8月号/高知』
佐賀県立名護屋城博物館	「信時老為果穀校尉龍驤衛司直国身」(小野家文書)	名護屋城博物館開館30周年記念特別企画展「新時代の かけはしー文禄・慶長の役から国交回復へー」
対馬博物館	「朝鮮国信使絵巻(上巻の一部)」(宗家文庫史料・絵巻類1)	企画展「対州馬展」展示パネル「朝鮮通信使と馬」
(株)アフロ	「朝鮮国信使絵巻(上・下巻の一部)」(宗家文庫史料・絵巻類1・2)	『小学問題集コア6年』株式会社好学出版
対馬市教育委員会	「金石城図」(宗家文庫史料・絵図類Ab-21)	旧金石城庭園の周知を目的としたパンフレット
Korea.net	「朝鮮国信使絵巻(文化度の一部)」(宗家文庫史料・絵巻類3)	Korea.net上のweb記事
株式会社旺文社	「朝鮮国信使絵巻(上・下巻の一部)」(宗家文庫史料・絵巻類1・2)	『大学入試パスナビ 過去問ライブラリー』
長崎新聞ととってmotto	「朝鮮国信使絵巻(文化度の一部)」(宗家文庫史料・絵巻類3)	長崎新聞ととってmotto記事「〇〇の時間」
読売新聞	「朝鮮国信使絵巻(下巻の一部)」(宗家文庫史料・絵巻類2) 「朝鮮国信使絵巻(文化度の一部)」(宗家文庫史料・絵巻類3)	読売新聞記事「紡ぐ面」
日本古文書学会	「少式貞経書下」(大山小田家文書) 「宗義調書状」(杉村家文書) 「朝鮮国告身」(小野家文書)	日本古文書学会大会の案内ポスター
読売新聞	「渡海訳官并従者姓名」(宗家文庫史料・一紙物994)	鯉浦遭難訳官使についての取材
NHK長崎放送局	「朝鮮国信使絵巻(文化度)」(宗家文庫史料・絵巻類3)	「ぎゅっと長崎」「定時ニュース845」 (令和5年8月25日放送)
NHKエンタープライズ	「朝鮮国信使絵巻(文化度の一部)」(宗家文庫史料・絵巻類3) 「雨森芳洲肖像画」(レプリカ)	「街道をゆく第29回 彦岐・対馬の道」 (1999年10月30日放送分アーカイブ)
さとより	「御牧馬并ニ御預ケ馬帳」(宗家文庫史料・記録類I-2-O-2)	『広報つしま』(2023年8月号)
株式会社Gakken	「朝鮮国信使絵巻(上・下巻の一部)」(宗家文庫史料・絵巻類1・2)	『高校入試ランク順中学社会科用語750改訂版』
株式会社アテファクトリー	「朝鮮国信使絵巻(下巻の一部)」(宗家文庫史料・絵巻類2)	『埼玉県入試対策テスト』教育出版社株式会社
NHK長崎放送局	「朝鮮国信使絵巻(文化度)」(宗家文庫史料・絵巻類3)	「おはよう日本」「NHKワールド」 (令和5年9月14日・21日放送)
NHK長崎放送局	令和5年度平常展特集「対馬の古文書展」(対馬博物館・センター共催)	お昼のニュース(長崎)「ぎゅっと長崎」 (令和5年9月25日放送)
NHK福岡放送局	「朝鮮国信使絵巻(文化度の一部)」(宗家文庫史料・絵巻類3) 「対馬藩政日記」(宗家文庫史料・日記類Aa-1-1)のうち江戸御執権衆 江遣御状跡付(寛永14年9月15日 蜂蜜献上に関する記述)	「ロクいち!福岡」内コーナー「食イテ!」 (令和5年10月4日放送)
藪下 純子	「朝鮮国信使絵巻(下巻の一部)」(宗家文庫史料・絵巻類2)	『日本の国土と人々の暮らし8巻 国境の暮らし』 ポプラ社
浅川 瑠美	「朝鮮国信使絵巻(下巻の一部)」(宗家文庫史料・絵巻類2)	『ビジュアルでつかむ! 俳句の達人たち 松尾芭蕉』 ほるぷ出版
高田 英樹	「事林広記(9巻の一部)」(宗家文庫史料・典籍類2-C-4-1)	同人誌『百万遍』(オンライン)
藪下 純子	「朝鮮国信使絵巻(下巻の一部)」(宗家文庫史料・絵巻類2)	『日本の国土と人々の暮らし8巻 国境の暮らし』 電子書籍版 ポプラ社
対馬市観光物産協会	「宗義和図書」(宗家文庫史料・印章類76-1) 「宗義和花押」(宗家文庫史料・印章類77-11-1) 「朝鮮国信使絵巻(文化度の一部)」(宗家文庫史料・絵巻類3)	対馬の観光PR用ポスター
山川出版社	「朝鮮国信使絵巻(上・下巻の一部)」(宗家文庫史料・絵巻類1・2)	『現代の歴史総合 みる・読みとく・考える 改訂版』
対馬博物館	「元禄対馬国絵図」(宗家文庫史料・絵図類Aa-1)	元禄対馬国絵図(レプリカ作成のため撮影)
荒木和憲	「御判物写与良郷」(宗家文庫史料・記録類II-1-A-61)のうち 野上景郷・安村房家連署書状写の花押影の部分	『国立歴史民俗博物館研究報告245』内の研究ノート 「中世対馬船の日本海航行」
株式会社ユニフォットプレス インターナショナル	「草梁倭館絵図」(宗家文庫史料・絵図類Ua-12)	『詳解歴史総合』『新歴史総合』東京書籍
対馬市	「朝鮮国信使絵巻(文化度)」(宗家文庫史料・絵巻類3)	韓国展望所に設置予定のパネル
長崎国際テレビ	「元禄13年 表書札方毎日記」(宗家文庫史料・日記類Aa-1,89) 「元禄13年 奥書札方毎日記」(宗家文庫史料・日記類Ab-1,16)	「NEWS every長崎」(令和6年1月31日放送予定)
対馬博物館	関野益友「武内宿禰図」(内野・津江関係資料(寄託))	市政施行20周年記念特別展「対馬の美術 I 対馬に生きた 画家たち」の図録・広報物
敬文社	「草梁倭館絵図」(宗家文庫史料・絵図類Ua-12)	「日本歴史 私の最新講義」シリーズ 村井章介著『境界史の構想』電子書籍版
佐賀県立名護屋城博物館	「東照宮御書之写三通」(宗家文庫史料・記録類II-23-K-22)	『佐賀県立名護屋城博物館研究紀要』第30集
対馬市観光商工課	「宗義和図書」(宗家文庫史料・印章類76-1) 「朝鮮国信使絵巻(文化度の一部)」(宗家文庫史料・絵巻類3)	対馬観光ガイドマップ
株式会社ダン	「金石城及清水山城実測図」(宗家文庫史料・絵図類Ab-72)	お城情報サイト「城びと」
株式会社トータルメディア 開発研究所	「朝鮮国信使絵巻(下巻の一部)」(宗家文庫史料・絵巻類2)	岡崎市「三河武士のやかた家康館」内の展示パネル・ 多言語対応QRコンテンツ・展示解説映像・展示図録
対馬市教育委員会生涯学習課	「朝鮮国信使絵巻(文化度の一部)」(宗家文庫史料・絵巻類3)	「ながさきピース文化祭2025公式ホームページ」の エリア別紹介ページ

※『』は書籍名、申請者と出版者が異なる場合、書籍名のあとに出版者を記載。 ※  は放映、 は利用その他。ほかは全て掲載。

※〇〇類のあとの番号は、宗家文庫史料の管理番号。

長崎県対馬歴史研究センター所報 4号

2024年 4月発行

編集・発行 長崎県対馬歴史研究センター

〒817-0021

長崎県対馬市厳原町今屋敷668-2

(対馬博物館2階)

Tel/0920-52-3687

Fax/0920-52-1816

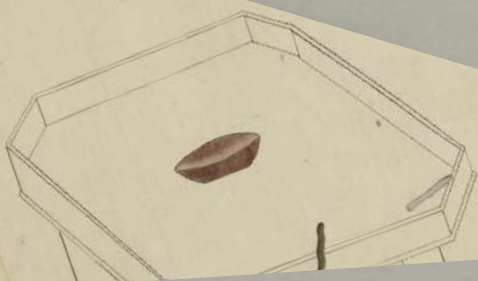
e-mail/s40470@pref.nagasaki.lg.jp



<https://tsushima-hrc.jp>



之合
花子



花子



抽干

水花
下り花



外食所

水花

此即此所...
元本堂...
如法...



廣平堂
上座
様の家令儀

二ツ星の花

三使
花相
唐紙

上座
唐紙



花子
上座



花子
上座

加
浪

杉原高
葉子

本松
大松
全松

押
浪



船子
浪

